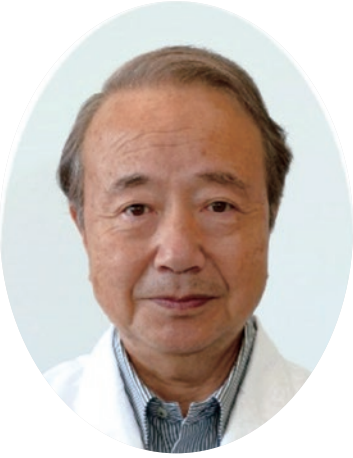
栃木県立リハビリテーションセンター
Tochigi Prefectural Rehabilitation Center

とちリハ通信

第64号
令和２(2020)年
６月

新年度を迎えて　～理事長挨拶～



理事長　星野雄一

令和２年度の春は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）との戦いが激しさを増し、全都道府県に非常事態宣言が出るという第２次世界大戦以降初の社会的緊張の元での年度始めです。

COVID-19対策が当面は最優先ですが、通常医療のニーズに変化はなく、障害を持つ方の自立を支援する為の医療・福祉を提供するという我々の役割にも、これまで通りの尽力が求められています。

対策を徹底する事により患者さんは当然のこと職員を守りぬき、当センターの任務を遂行するために必要な機能を堅持していけるよう尽力して行く所存です。

戦いは２～３カ月で終わるような短距離走ではなく、少なくとも１～２年は気を緩める事が出来ない長距離走の様相を呈しています。最後まで戦い抜く強い決意とともに、息切れしないペース配分も求められていると思います。

◆トピックス　～独法化３年目を迎え、改めて当センターの紹介をいたします～

リハビリテーション部

令和２年４月に、理学療法士３名、作業療法士３名、言語聴覚士１名、計７名の新人を迎え、90名体制でスタートしました。

今年度も引き続き、回復期を中心とした成人患者さんのリハビリテーションと、障害を持った小児のリハビリテーションを軸に業務をすすめていきます。

これまでも入院患者さんには365日リハを実施してきましたが、回復期リハビリテーション病棟でも、平日の実施単位数の平均8.2単位程度に比べて、休日が6.2単位程度と少ないことが課題でした（2020年１月～３月平均）。

今年度は目標の一つとして、休日の実施単位を増やして平日と休日の実施単位数の差を解消することを掲げ、年度の後半には実現できるよう努めます。

リハビリテーション部
職員一同

看護部

看護部は、４月に10名の新しい職員を迎え新年度のスタートを切りました。
看護師の配属先として、複合施設という特色から、一般病棟、回復期リハビリテーション病棟、肢体不自由児入所施設、外来、手術室、通園施設、障害者自立訓練センターと多岐に及びます。
看護師は各部署において、リハビリテーション医療を提供する専門職種チームの一員として知識・技術を高め、質の高い看護の提供に努めています。
今年は図らずも、近代看護、感染管理の礎を築いたフローレンス・ナイチンゲール生誕200年を迎えます。
生誕200年を迎えるにあたり「Nursing Now－看護の力で健康な社会を－」のキャンペーンが世界的に展開されています。
時代は変わっても看護師としての姿勢は変わらぬもので、日々私達は、自分自身が心身の健康を保ち、そして質の高い看護の提供に努めています。

診療部

診療部は医務課と診療技術課、地域医療連携室の２課・１室体制となっています。
医務課には診療を担う各科の医師が所属しており、リハビリテーション科・整形外科・小児科・神経内科の専門医が常勤で働いています。診療技術課は、薬剤師の薬剤科、臨床検査技師の検査科、診療放射線技師の放射線科、管理栄養士の栄養科が、医師とともに診療を担っています。
地域医療連携室は、保健師・社会福祉士・事務が所属し、地域連携の窓口として、転院相談、入院相談の受付をしており、地域の医療機関、介護保険関連機関、医療福祉関連機関と円滑に連携を図ることを目指しています。
令和２年度は、栄養科で回復期リハビリテーション病棟における栄養管理のさらなる充実のため管理栄養士を１名増員し、新卒の新規採用職員が入りました。
また地域医療連携室の強化のために事務員が１名他部門から異動し高次脳機能障害支援にも力を入れていきます。

施設部

施設部には、肢体不自由や発達障害等のある障害児の通園施設である「こども発達支援センター」、主に肢体不自由児が入所して療育や訓練を受ける「こども療育センター」及び身体障害や高次脳機能障害のある障害者等がより自立した生活を目指し訓練する「障害者自立訓練センター（駒生園）」があります。
病院併設のメリットを活かし多くの専門職が支援に当たる充実した職員体制が特徴で、平成30年生まれから昭和35年生まれまで県民に幅広く御利用頂いています。
皆様が施設に寄せる希望や願いは幅広く、応えることが難しいと感じることもありますが、職員は、一人ひとりの思いに寄り添い、日々の訓練支援に当たっています。辛抱強く繰り返す訓練の成果を、「できた！」と利用児・者さんと共に喜び合い、共感できるお仕事でもあります。
現在は感染症対策のため、普段と異なる実施体制となっていますが、施設利用を通じ「できた」という笑顔を増やしていけるよう努めて参ります。

管理部

令和２年４月リハビリテーションセンターは地方独立行政法人となって３年目のスタートを迎えました。
そのセンターを支える管理部のご紹介をいたします。
管理部は経営企画室、総務課、財務課、医事課から組織されております。
今年度は新人２名が加わりました。
管理部は、経営戦略の企画立案をはじめとして、人事、職員の給与や福利厚生といった職員全般に関わる事務、事務予算・決算に関する業務、診療報酬や障害福祉サービスに係る報酬に関する業務など、センター全体の経営・管理運営を担っています。
引き続き、安定的な経営が行えるよう、また、職員全員が笑顔で働けるよう管理部一同これからも頑張っていきます。

管理部一同

連載

この人紹介　＊＊ 当センター職員の特技・資格を紹介する新コーナーです ＊＊

第１回　「認定看護師」

認定看護師活動紹介

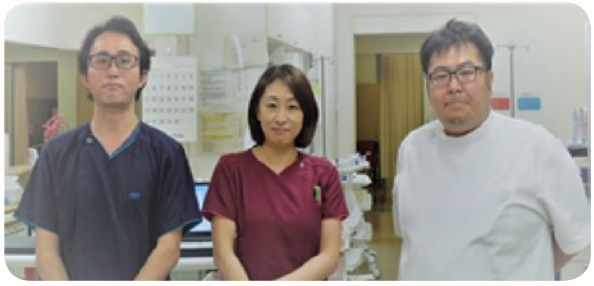
昨年度、摂食嚥下障害看護認定看護師が誕生し、認定看護師は８名となりました。
その人らしく生活することをサポートしていきたい！！その思いを胸に、日々、患者さんへの看護やスタッフへの指導を実践しています。
各認定看護師の活動を紹介します。

摂食嚥下障害看護認定看護師
こども療育センター　横田 由紀副看護師長

摂食嚥下障害看護認定看護師は、発達遅滞、脳血管疾患や手術後の後遺症、加齢など何らかの理由で口から食べることが出来なくなった患者さんの「飲み込むこと」「食べること」を支援し、もう一度「美味しい！」と笑顔になれるよう介入していくことが役割です。

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師

入院中のご家族を対象にした脳卒中再発予防教室を開催しています。個別指導や出前講座も是非ご相談ください。



回復期リハビリテーション看護師

合同研修会　テーマ「チームアプローチ」
参加者　看護師・療法士123名
職種の持ち味やチーム力を発揮できるよう多職種とグループワークで意見交換をしました。

職員採用案内

当センターでは、一緒に働く職員を募集しております。
ご応募お待ちしております。

募集職種

- 医師
- 看護師
- 薬剤師
- 理学療法士
- 作業療法士
- 言語聴覚士
- MSW（医療ソーシャルワーカー）
- 一般事務
- 福祉（介護）職

詳細は、当センターホームページ「採用募集情報」（https://tochigi-riha.jp/）をご覧ください！

ナイチュウ

編集後記

今年度初の発行になりました。
新型コロナウイルスとの戦いが続いていますが、当センター職員も利用者の皆様が安心して過ごせるよう、日々感染対策に励んでいます。
出口がなかなか見えず不安になりがちな毎日ですが、今だからできる楽しいことや新しいことを発見できるよう、前向きに過ごしていきたいです。
独法化3年目を迎えました。当センターを改めてよろしくお願いします。

（発行）地方独立行政法人
栃木県立リハビリテーションセンター
管理部総務課

〒320-8503　宇都宮市駒生町3337-1
TEL 028-623-6101（代表）
FAX 028-623-6151
ホームページ　https : //tochigi-riha.jp/

◎本冊子はユニバーサルデザインフォントを使用しています。
※ユニバーサルデザインフォント…年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、さまざまな人が読みやすく、誤読されにくい書体です。